



COP19・COP/MOP9報告会

COP19での REDD+交渉

CI ジャパン
副代表 兼
気候変動プログラム
ディレクター
山下 加夏

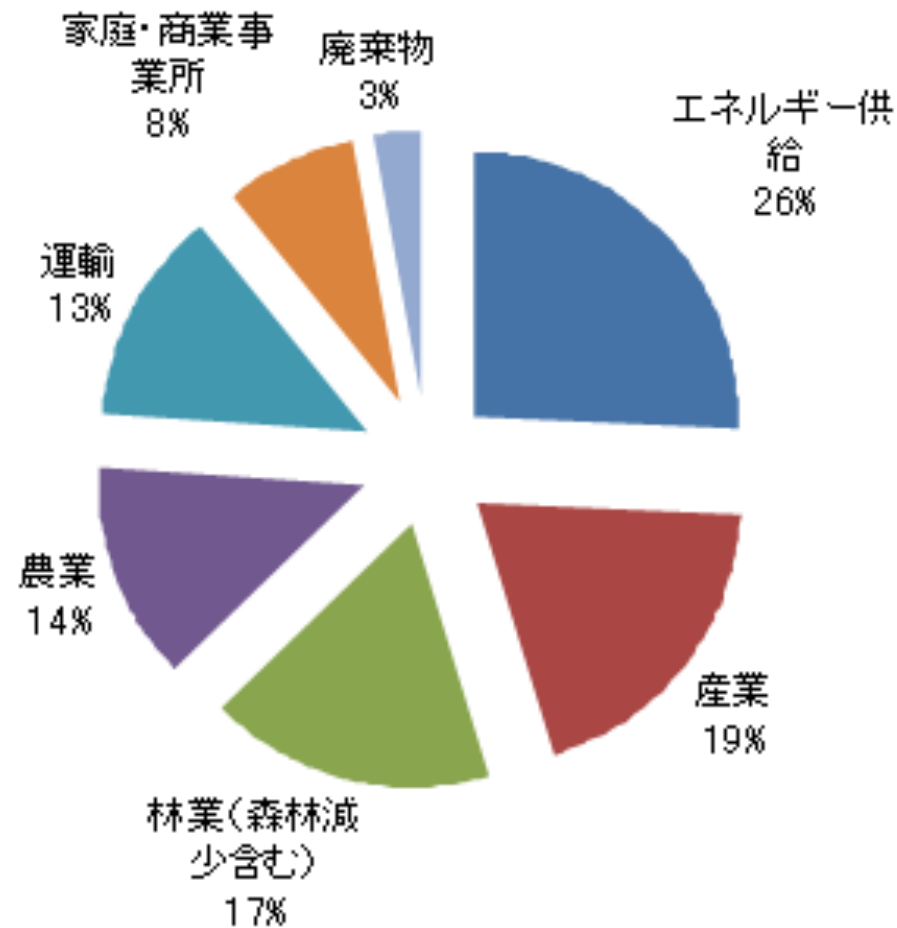
2013年12月18日

CONSERVATION
INTERNATIONAL



Japan

世界のGHG排出量における森林減少、農業の位置づけ



出展: IPCC, 第4次評価報告書

REDD+とは？

(a) 森林減少の抑制(Reducing Emissions from Deforestation)

(b) 森林劣化の抑制(Reducing Emissions from Forest Degradation)

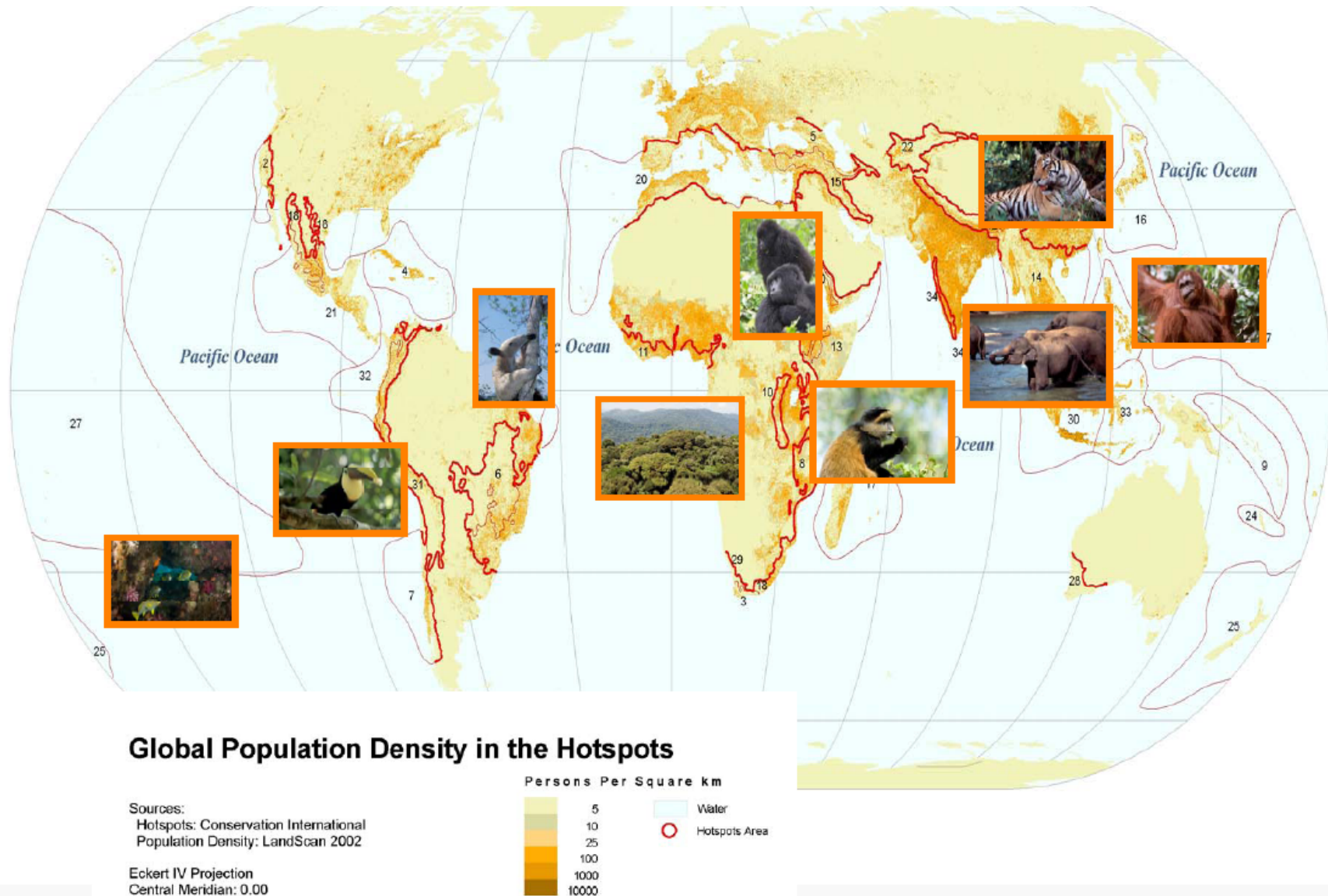
+

(c) 森林カーボンストックの保全(Conservation of Forest Carbon Stocks)

(d) 持続可能な森林管理(Sustainable Management of Forest)

(e) 森林カーボンストックの増進(Enhancement of Forest Carbon Stocks)

REDD+は気候変動の枠を超える問題！ 人口が密集する地域と生物多様性ホットスポット



復習：COP18でのREDD+交渉



コンタクトグループの部屋後部で調整を試みるG77&China

交渉の論点

- 途上国側が「予測可能な資金と技術協力がある前提で、森林モニタリングに取り組む」という前提条件を文言に入れることを主張
- さらに、MRVの「V」を「International Consultation and Analysis」のプロセスで実施することを提案



最後まで文言の合意に向け調整を試みるブラジル、ノルウェー

- 先進国側は、MRVの「V」を「国際的な検証プロセス」に基づき実施すべきと主張



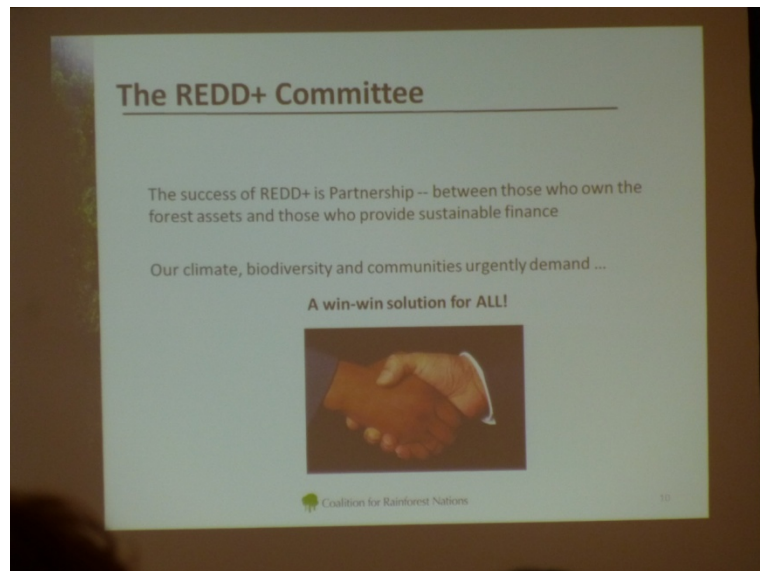
5年間のREDD+交渉で初めて、全く進展なしに終了

復習：SBSTA 38(2013年ボン)REDD+の交渉内容（1）

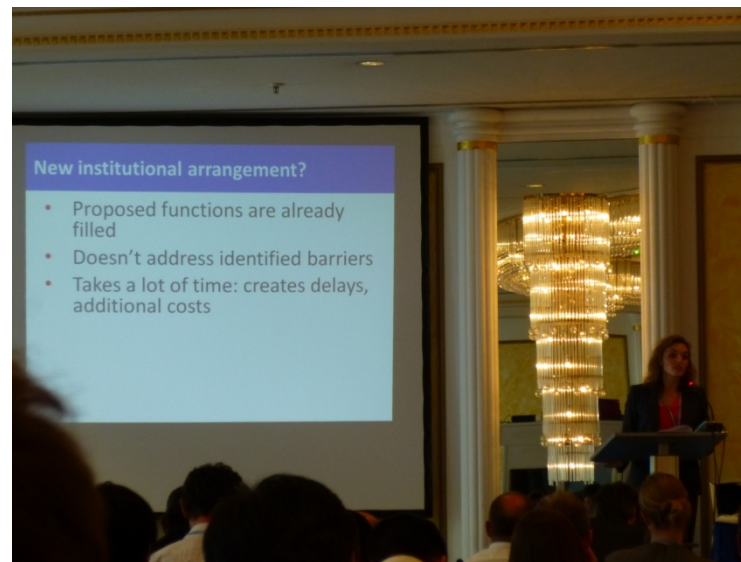
SBSTA議題	結果
森林モニタリングシステム	COP19合意予定
セーフガード	COP20合意予定(2014年9月24日までにサブミッション。)
森林減少の要因	COP19合意予定
測定、報告、検証(MRV)	COP19合意に向け、SBSTA39にて交渉継続することを合意
参照排出レベル/参照レベル	COP19合意に向け、SBSTA39にて交渉継続することを合意
非市場アプローチ	2014年3月26日までにサブミッション。SBSTA 40(2014年6月)に交渉の継続とワークショップ開催。SBSTA41で(2014年12月)継続検討。
炭素以外の便益	2014年3月26日までにサブミッション。SBSTA 40(2014年6月)にて交渉の継続

復習: SBSTA/SBI(ボン2013年)REDD+の交渉内容(2)

SBSTA/SBI ワークショップ	結果
実施に基づく資金 供与	開催期間中ワークショップ開催。SBSTA39(ワルシャワ)で交渉継続
支援のコーディネーション	開催期間中ワークショップ開催。SBSTA39(ワルシャワ)で交渉継続

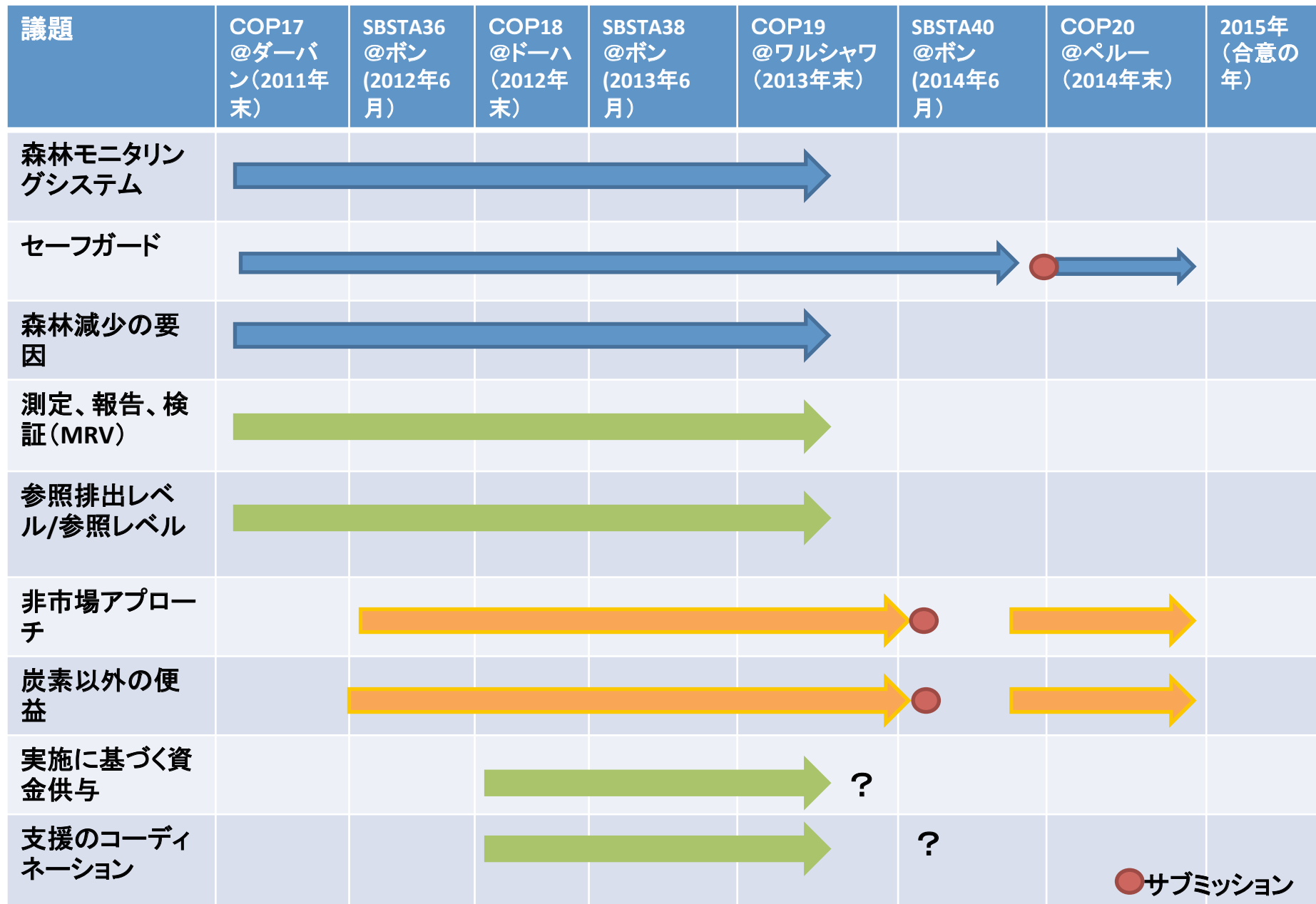


Coalition of Rainforest Alliance (CfRN)による発表

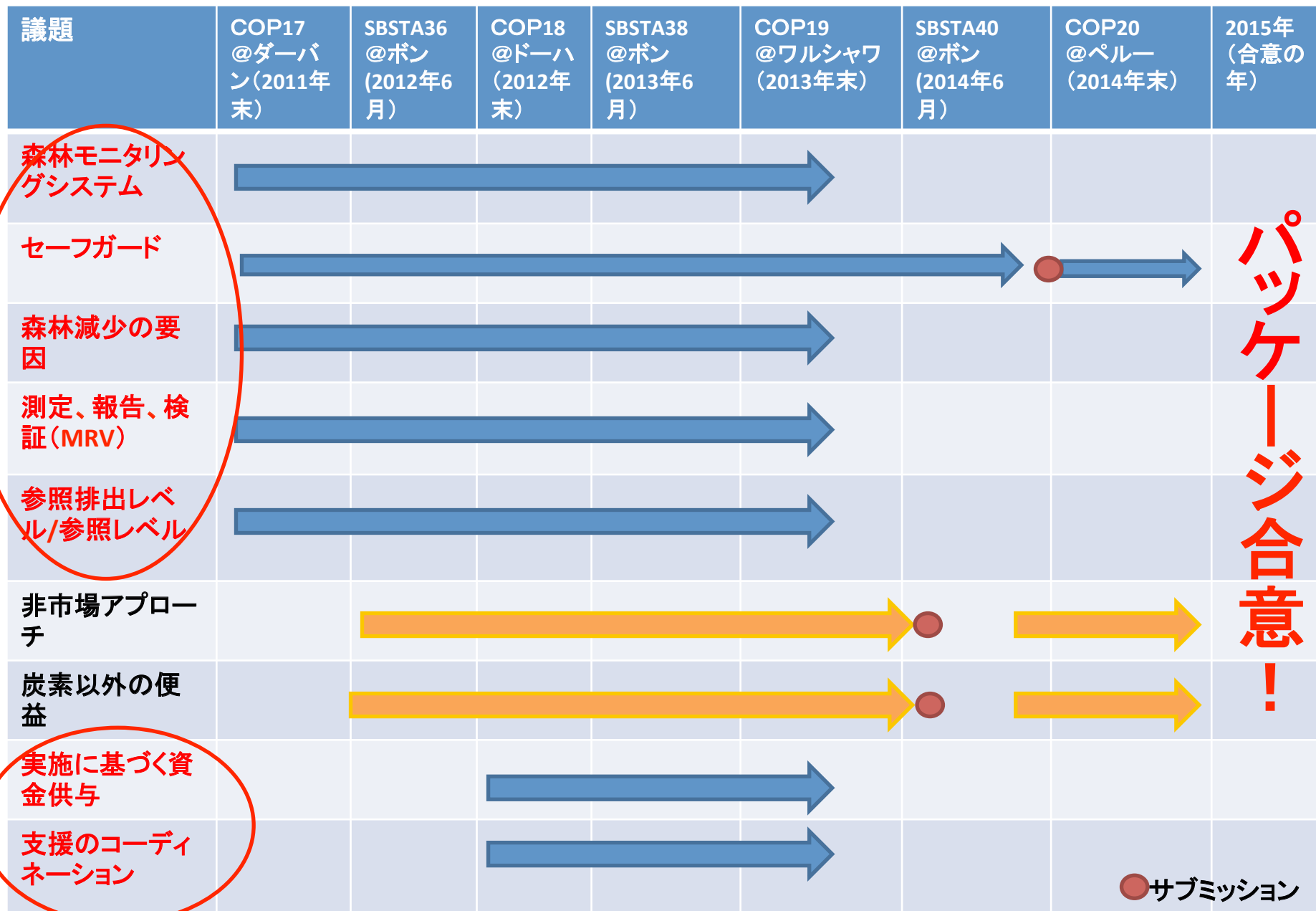


米国による発表

REDD+交渉のロードマップ(2013年6月時点)



COP19 REDD+交渉結果(2013年12月時点)



ワルシャワ・フレームワークREDD+アクション（仮称）

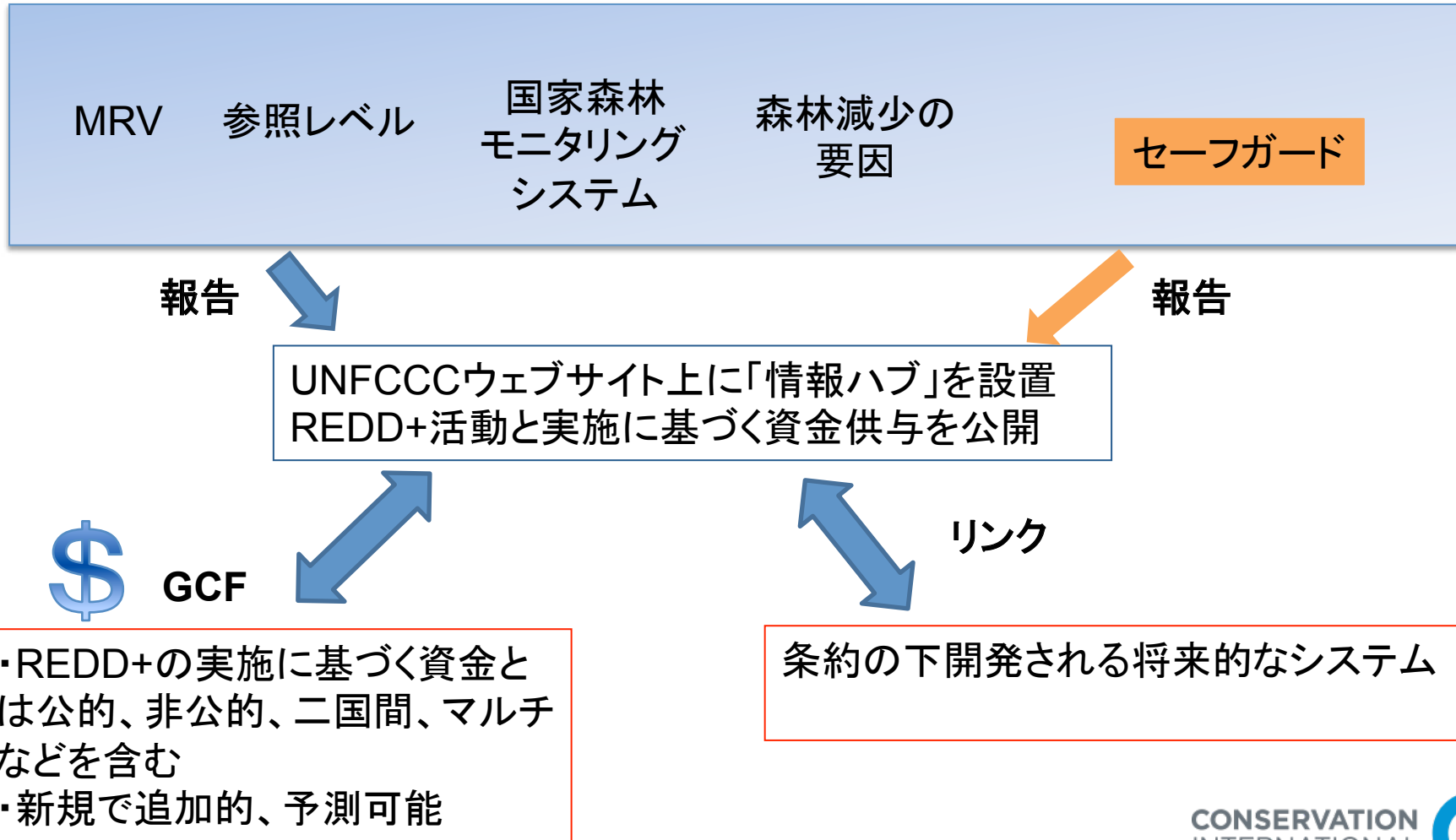


- 1週目にSBSTAの技術的課題(MRV, RL)の交渉に目途がつくも、資金、支援体制に関するパッケージでないと合意できないとの途上国側の主張により、決定は2週目以降に持ち越し
- 2週目、金曜ぎりぎりまで資金、支援体制に関する水面下交渉が続く
- REDD+がパッケージ合意に至ったことは、COP19最大の成果の一つ



「実施に基づく資金供与」の仕組み

- Results based finance 合意文書より:



「REDD+支援のコーディネーション」の仕組み

・支援のコーディネーションの合意文書より:

- 途上国内でREDD+を統括する国家機関もしくはフォーカルポイントを設置
(条約事務局とのリエゾン・実施に基づく支払いの受け取り機関)
- 知識や知見の共有の促進
- 資金や活動実施の効率を高めるためのリコメンデーションの実施

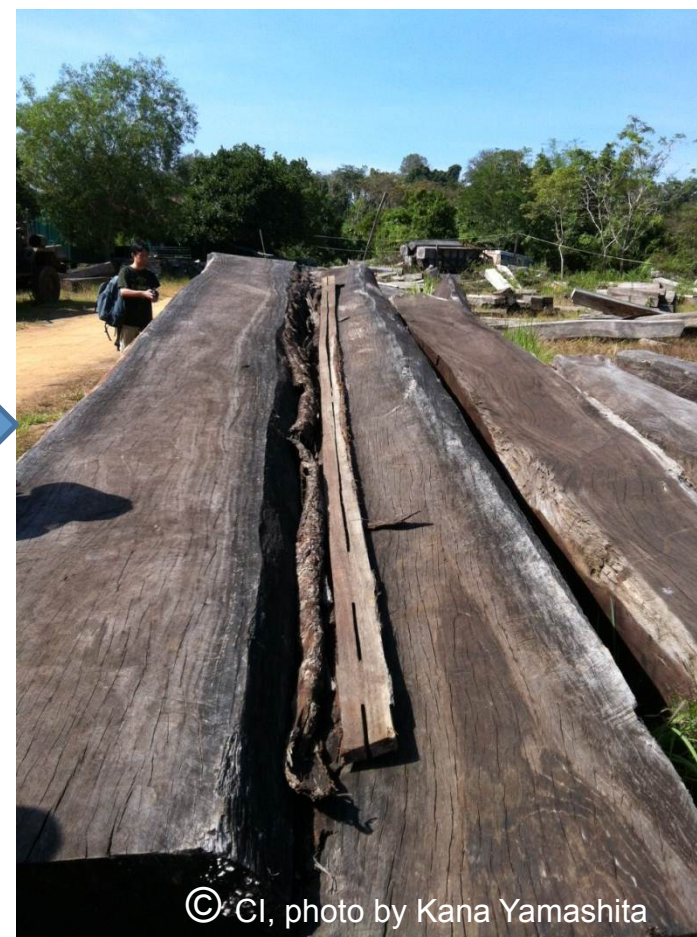
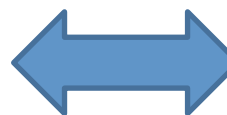
- SBの実施期日に合わせ、年1回の会合を開催
- SBI第47回会合(2017年)までに、会合の結果をレビューし、2017年のCOP23に結果を報告する

REDD+パッケージ合意を受けて（考察）

- パッケージ合意は、先進国、途上国によるREDD+推進の重要性と迅速な対応を喚起するもの
- 今後は、ADP文書へのREDD+統合が必要
- 技術的な議題は、最低限の範囲での決定に留まる。（途上国側の能力の差への配慮か、合意を最優先したせいかな？）
- セーフガードの交渉は内容が詰めきれていないとの見解が途上国側からCOPの場で見られる。来年度以降、サブミッションを経て内容を詰める作業が重要

国際条約と森林減少の現場をつなぐ重要性

- REDD+は歴史上初めて、全世界で森林保全に取り組む法的拘束力のある枠組みとなる可能性がある
- 途上国、特に最貧国の排出源は、土地利用セクターが殆どをしめる



© CI, photo by Kana Yamashita



© CI, photo by Kana Yamashita



© CI, photo by Kana Yamashita

COP19: REDD+への資金支援と今後の動向

- 英国(\$120M)、米国(\$25M)、ノルウェイ(\$135M)、合計\$280Mを、世界銀行バイオ炭素基金が新設した'Initiative for Sustainable Forest Landscapes 'への拠出表明
- ドイツも追加支援を表明
- 米国が会合中に唯一、積極的に資金拠出を表明した案件
- ノルウェイは世銀への拠出に留まらず、二国間による途上国支援続行を表明
- COP19では、REDD+は「気候変動問題のみに留まらず、多様な課題への対処を含むランズケープ的アプローチが必要」との認識が一部に定着
- 日本は、今後国内の制度設計とあわせ、資金、技術的支援の早急なパッケージ化が必要

ご清聴ありがとうございました！

www.conservation.or.jp (Japanese)

www.conservation.org (English)



© CI, photo by Kana Yamashita

REDD+の国際交渉の歩み (1)

年度	概要・マイルストーン
COP11(2005年)@モントリオール	パプアニューギニアとコスタリカがREDDの素案となる「発展途上国における森林破壊由来の排出の削減:行動を促す取り組み」を提案
COP13(2007年)@パリ	「パリ行動計画」(決定1/CP.13)で、時期枠組みにおける検討項目としてREDD+を対象とすることに合意
*この間、AWG-LCAおよびSBSTA33(2008年6月)で継続議論 2008年6月 世界銀行「森林炭素パートナーシップ基金(FCPF)設立	
COP15(2009年)@コペンハーゲン	「コペンハーゲン合意」では森林減少・劣化からの排出の削減や吸収の役割の重要性や、REDD+を含む制度を直ちに創設することに言及 ・REDD+に関する方法論のガイダンスを決定(決定4/CP.15)
*この間、AWG-LCAおよびSBSTA34(2010年6月)で継続議論 二国間枠組みの立ち上げ(フランス、ノルウェー、 日本 等)	
COP16(2010年)@カンクン	REDD+の制度・政策面の議論が本格化 REDD+に関する合意がCOP16の決議文書に盛り込まれた(決定1・CP.16)他、Annexに セーフガード の項目が含まれる
*この間、AWG-LCAおよびSBSTA35(2011年6月)で継続議論	

REDD+の国際交渉の歩み (2)

年度	概要・マイルストーン
COP17(2011年)@ダーバン	<ul style="list-style-type: none"> ・「セーフガード情報提供システム」のガイダンスの合意 ・「森林リファレンス・レベル」等のモダリティの合意 ・「国家森林モニタリング・システム」はSBSTA36の議題に→サブミッション ・「森林減少・森林劣化の要因(ドライバー)」はSBSTA36の議題に→サブミッション ・緩和と適応のための非市場アプローチの開発の可能性について言及 AWG-LCA14 ・完全実施段階における「REDD+の成果の基づく活動への支払い方法」はSBSTA36の協議に→サブミッション
*SBSTA36(2012年6月)での議論	<ul style="list-style-type: none"> ・「国家森林モニタリング・システムとMRV」:引き続き方法論的なガイダンスの検討を続け、ドーハで開催される第37回SBSTAで決定、COP18での採択を目指す。 ・森林劣化の要因(ドライバー)、セーフガード、参照排出レベル/参照レベルは検討の道筋決定に留まる
COP18(2012年)@ドーハ	<ul style="list-style-type: none"> ・一番議論が進んでいた「国家森林モニタリング・システムとMRV」から協議するも、途上国と先進国が激しく対立。REDD+の交渉で、過去5年間一度もなかった決議内容のないCOPとして終わる